

意味調べ (▼の意味のみ。左以外にも調べておくこと。)

目を皿のようにして 目を大きく見開いて。驚いたり、何かを探したりする時の様子。

息を殺す 呼吸の音をさせずにじっとしている。

…だろうが…だろうが …でも…でもみんな。多くのものを列挙する時に使う言い方。

…が高じる(高ずる) …の程度がひどくなる。

(一瞬)たりとも (一瞬)であっつても。

息をのむ 驚いて、思わず息をとめる。

紛れもなく 間違いなく。

教科書下の質問

p. 16 4行目 「縫つよつに」とは、どういふ様子か。

蝶が木々のこずえの間を擦り抜けて飛び、その姿が見えたり消えたりする様子。

p. 16 10行目 「アゲハチョウの羽の予感が宿っている」とは、どういふことか。

幼虫の羽の文様を見ていると、やがて羽化してアゲハチョウになった時の文様を何となく予想することができるといふような気がするということ。

p. 18 9行目 「書庫の澱の中に眠っていた」とは、どういふことか。

その本が、誰も訪れることのない書庫の奥に、誰にも読まれることなく置かれたままになっていたということ。

学習の手引き

1 本文を通して、筆者が書くように、子どもの頃に夢中になったものがあれば挙げよう。

プラモデル作り、多くの駅名を覚えた、多くの国旗の国名が言えた、など。

2 少年時代の筆者が虫に熱中している様子をよく表している表現を、「蝶」「アゲハチョウの卵」「ルリボシカミキリ」についての話から、それぞれ抜き出そう。

「蝶」…「捕虫網を握りしめて、じっと目当ての蝶が飛来するのを待った」(p. 16 1行目)

「アゲハチョウの卵」…「目を皿のようにしてミカンの葉の裏に産みつけられたアゲハチョウの卵を探した」(p. 16

6)

「ルリボシカミキリ」…「私は息を殺してずっとその青を見つめ続けた」(p. 17 8行目)

3 「その時の、そんな気持ち」(p. 19 2)とは、どのような気持ちか。

自然の美しさへの驚きや感動。自然への畏敬の念。

4 「何か一つ好きなことがある」と(p. 19 10)が、自分にとってなぜ大切なのか。筆者の主張に沿って説明しよう。
好きなことがあることによって、人は調べるなどの具体的な行動を起こし、その行動を通して世界の記述の仕方を学ぶことができる。そしてまた、好きなことがあること自体が、私たちの人生を豊かにし、私たちに励ましてくれるから。

5 「この世界のありようをただ記述しただけだ」(p. 20 4行目)とはどのようなことが、説明しよう。
この世界を観察して、この世界がどのようにできているのかを、はっきりと言葉で表現しただけだということ。